



経済理論と日常生活のつながりを学び、知識を社会で活用できるようになる

[現代経済学科]の
教授 & 学生による **誌上TALK**

鈴木 将覚 教授 × 3年 小川 優衣 さん

鈴木 経済学は、社会に出た後も様々な場面で役に立ちます

様々な分野を学び、経済分析の面白さに気づく

鈴木 小川さんは現代経済学科をどのような学科だと思いますか？学科で得られる学びは何ですか？

小川 現代経済学科では、財政・金融・社会保障・産業・歴史など様々な分野について学ぶことができます。最初から1つのことに絞るのではなく、幅広く学習することによって、様々な分野へ興味・関心が持てるようになると思います。

鈴木 マクロ経済学・ミクロ経済学を基本として財政・金融政策、企業・産業の分析、日本・海外の経済動向、経済史など

様々な分野を学んで知識を広げるとともに、経済分析の面白さも感じてもらえるはずです。統計学を用いた計量的な手法を学ぶことができるのも、現代経済学科の特徴です。これからはどんなことを学んでいきたいですか？

小川 私は公共経済学に興味があります。その中でも資源配分と所得配分が適切に行われるためにはどうしたらよいか、について学ぶことに面白さを感じています。経済成長のために求められる政策とは何か、どのような租税体系が望ましいかなどの議論が重要だと思っています。今後は様々な問題に対して、より説得力のある意見を持てるようになりたいです。

小川 幅広く学べるので、知らない分野への興味も湧いてきます

経済学は、日常生活と密接に関わっている

鈴木 小川さんが興味を持っている財政・公共経済学の分析対象は、税制、政府債務、年金・医療・介護、所得格差、高齢者・女性労働など多岐にわたります。いずれも我々が現実直面に直面している問題ですが、ゼミナールでは政策担当者になったつもりで、そして学生らしい柔軟な発想を持って、あるべき政策の姿を考えてもらっています。今の学びを将来にどうつなげたいですか？

小川 経済と聞くと難しく、自分とは遠いものを感じてしま

いますが、実際は円安・物価高・子育て支援など生活のあらゆる場面で関わっているため、日常の小さなことから大きなことまで様々なことに役立てられると思っています。

鈴木 そうですね。実際に社会に出て働くようになると、自分の給料はこの先ちゃんと上がっていくのだろうか、海外事業は上手くいくのか、老後のための資産運用はどうすればいいのかなど、否応なく多くの経済問題に直面することになります。経済学のスキルを使うことができれば、このような問題に対して、徒手空拳で腕を振り回すよりもはるかに上手く対応できるようになると思いますよ。